

2019年度日韓空間情報フォーラム 開催報告

本フォーラムは、2017年度から「日韓空間情報フォーラム」と名称を変え3回目となります。本年度は韓国側の主催でしたが、初めてソウルを離れ済州島で開催されました。本フォーラムを通じて、両国の特に民間における空間情報産業の発展と技術者間のネットワークを構築する場として継続しております。

1. セミナー名：第3回日韓空間情報フォーラム in 済州島
2. 日程：2019年10月24日（木） 9：30～14：00
3. 場所：韓国済州市 Maison GLAD Jeju Hotel (AMETHYST HALL)
4. 主催：韓国空間情報産業協同組合、韓国技術士会、ソウル市立大学、
公益財団法人日本測量調査技術協会
5. 参加者：日本10名、韓国17名 計27名
6. プログラム（発表タイトルのみ）：
日本側：①移動体計測技術を用いた施工効率化
②日本のALBを用いた公共測量の現状と展望
③日本におけるUAVレーザ測量の技術基準等
④日本におけるi-Constructionの現状
韓国側：①MMSを活用した幾何学構造解析
②高詳細地図の活用性検証指針
③仁川市における3D仮想都市構築事業のための航空レーザ成果検証
④3D情報による交通気象用画像視程システム
⑤UAVを用いたスマートシティ活用法案
⑥BIM/GISを利用したデジタルツイン構築事例
⑦韓国のスマートシティ建設現況と展望



フォーラム開催前の参加者全体写真
撮影（韓国済州市 Maison GLAD Hotel 会議室にて）